



歓迎パーティーで、胸いっぱい、お腹もいっぱい。

**握手した。演奏した。涙が出た。忘れられない、大感動の日!**

八月二日、私は初めてアメリカの広大な、大地にめぐり会い、足をふみしめました。その感動は私にとって一生忘れることのできない経験のはじまりでした。

その日の夜、私たちはヘレナにつきました。大ぜいの人々が私たちを迎えてくれました。全ての人とあく手をしました。温かい大きな手でした。みんな笑顔で迎えてくれました。ああ、私は何て幸福なんだろうと思ひ、涙が出てくるのです。

私たちはそれぞれのホストファミリーのところに入り分けられました。私は4人でホームステイすることになりました。その家の家族はお父さん、お母さん、男の子が二人の4人家族。すごくやさしくて、慣れない英語を話す私たちにあたたかく接してくれました。その長男の方がヘレナ少年合唱団の団員でした。不安なんてすぐにふきとんでしまっって自分の家のようにくつろぐことができました。

ました。

八月四日、ビューツに出発。ビューツでもあたたかくむかえられて、とてもうれしかったです。演奏はすごく良くてよかったです。ビューツの人々もとてもよろこんでくれてよかったです。ポーズマンでも同じように素晴らしい演奏会となりました。

再びヘレナに帰り、アメリカ最後の演奏になりました。今までよりさらに良い演奏がしたいと心から願いました。本番は先生と私たちの心が一つになり、素晴らしい演奏でした。観客席から大きな拍手がありました涙が出ます。生きていてよかったです。こんな感動を味わえる自分は何て幸せなのだろうかと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいでした。

これからの人生でつらいことや悲しいことがあってもこのような体験をした私にはどんなことでものりこえられるような気がします。

(生徒作文より)

# 僕らの吹奏樂が アメリカへ 渡った。

人吉二中吹奏樂部



歓迎の握手せめ。手前の人が指揮者のレス・クレマー氏。



ホームステイ先の牧場で、乗馬に挑戦。



ヘレナ少年合唱団と合同演奏。



市のメインストリートで太鼓を披露。



ヘレナ市シビックセンター前で、練習の一幕。

**8月、米国ヘレナ市「国際音楽祭」に出演。**  
全日本吹奏樂コンクールをはじめ、数々のコンクールで賞を獲得。全国に名を轟かす人吉一中吹奏樂部が、この夏米国へ演奏旅行しました。これは、県と姉妹都市関係にある、米国モンタナ州知事の招きによるもので、同州ヘレナ市で開催された「ロッキーマウンテン国際青少年音楽祭」に出演することが、第一の目的。大きな大きなロッキーマウン脈の空のもとで、子供たちは人々の心からの歓迎を受け、素晴らしい演奏をすることが出来たようです。